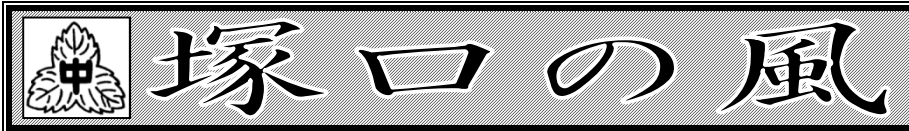


< 校訓 >

自主自立
友愛慈恕
共汗共生



〒661-0003 尼崎市富松町 4 丁目 31 番 1 号 TEL(06)6421-0620 Fax(06)6421-2169 http://www.ama-net.ed.jp/school/J15/index.html

賢者の贈り物

相手の目線や存在に立って考える

月 8 ドルの安いアパートに暮らす、ジムとデラという若い夫婦がいました。

クリスマスの前の日、妻のデラは財布の中のお金を何度も数えますが、1 ドルと 87 セントしかありません。愛する夫ジムに素敵なお金を買ったこれだけしかない、ソファーに倒れ込んで悲嘆に暮れます。彼女はジムのために、彼にふさわしい、素敵で、珍しくて、そして立派な何かをプレゼントしたいと考えていました。しかし、手持ちのお金では、どうにもなりません。

ふと立ち上がり、デラは部屋の窓のそばにある細長い鏡に自分の姿を映しました。

するとそのとき、自分たち夫婦が二つのすばらしいものを持っていることに気づきます。一つはジムの家に代々受け継がれてきた金の時計。そしてもう一つは、デラの長い髪でした。その髪は、まるで、どこかの国の女王様が身に着ける装飾品のよう、いえ、それ以上にすばらしく美しい髪でした。

デラは鏡の前で、その髪をまとめ上げると、一瞬ためらい、涙を浮かべました。しかし茶色のジャケットと帽子をかぶって、ドアを開け、通りへ降りました。

そして「マダム・ソフロニ — 髪用品 — 」という看板がかかっている店の前で足を止め、中に入りました。

「私の髪を買ってくださいますか。」

「帽子を取ってみせてください。」とマダムに言われ、デラが帽子を取ると、褐色の小滝がうねるように落ち、すばらしい長い髪が現れました。

20 ドルでデラの髪は売れました。彼女はそのお金を持ってジムのプレゼントを探して店を見て回りました。

そして彼女はついに見つけたのです。それは、ジムの金の時計にぴったりなプラチナのチェーンで、ジムが使うために作られた物のように思われました。21 ドルでそのチェーンを買って、家に戻りました。髪を切ってしまったことを何と言われるかという不安と、そしてジムに素敵なお金を渡すことができる期待とが入り交じる中、夕食の準備をしながら、デラはジムの帰りを待ちます。

家に帰ってきたジムはデラを見て立ちすくみました。しかし、デラには夫の表情が読み取れません。怒りでも驚きでも落胆でも恐怖でも、彼女が想像していたどれとも違う表情なのです。

デラはジムに寄り添い、事の次第を語ります。ジムはしばらくぼうっとしていましたがデラを抱きしめました。そしてポケットから包みを取り出し、机の上に置きました。

それは、デラがずっと欲しがって、けれども高価なのであきらめていた、長い髪のためのとても美しい櫛だったのです。そしてジムはそれを買うために、大切な金の時計を売ってしまったのでした。(O・ヘンリー「賢者の贈り物」から)



進路を考える

黒島伝治という人の作品に『電報』という大正時代の短編の小説があります。

島の貧しい農家に育った少年は、勉強が好きで、成績もよく、中学校へ進学して勉強したいという希望を持っていた。

少年の親は、少年の気持ちと「貧困の農家の子が中学などへ行くなんて」という当時の世間の風潮との間にはさまって悩むが、少年は受験するために島を離れる。

電話が普及していなかった時で、親は、「チチ ビョウキ スグカエレ」というウソの電報を打って、少年を呼び戻そうとした。しかし、少年が電報を見たのは試験が終わった後だったので、やがて少年のもとに「合格」の通知が届いた。…

親は、少年を中学へは入学させずに、醤油屋の小僧として奉公に出した。

義務教育が小学校までの時代で、封建的な思想が残っていたころの話ですから、今とは比較できないところもありますが、ただ何となく高校へ進学し、何の目標も持たずに高校生活を送る人が多い今の若者にも、一度考えてほしいと思います。

兵庫県 中学校 新人体操競技大会

男子団体総合 第 2 位

生田隆生(1-1)
生田秀悟(1-4)
佐藤 匠(2-4)

男子個人総合 第 2 位

生田秀悟(1-4)

男子種目別ゆか 第 1 位

生田秀悟(1-4)



日本拳法 孝徳会選手権大会

中学女子の部 準優勝 河野麗月(1-1)

中学女子の部 第 3 位 亀山乙葉(1-3)



中学生・高校生の「税の作文」

兵庫県納税貯蓄組合総連合会 会長賞

松江梨マ子(3-5) 「未来へ繋げる税金」



読書感想文コンクール

< 準特選 > 前田弥桜(2-1) 山本楓華(3-2)

< 入選 > 石橋麗奈(1-3) 安田空菜(1-5)

青木桜子(1-5) 上林宏平(2-4)

松下由奈(2-5) 小川優真(3-2)

歌原侑樹(3-6)



人権作文コンクール

< 入選 > 勝間涼乃(1-2) 「差別のない社会を願って」

石橋麗奈(1-3) 「温かい心」

久保田玲奈(3-6) 「自分の心を変えてくれた」

